

# 水道使用量を遠隔検針

## 水みらい広島 省力化へ自治体提案

広島県や呉市が出資する水道関連事業の水みらい広島（広島市中区）は、水道の使用量データを遠隔で確認できるスマートメーターの普及を目指す。宮島（廿日市市）で実験し、無線でデータを送れると確認。作業の省力化などを目的にスマートメーターへの切り替えが進む電力業界と同様のニーズがあるとして、水道事業主体の自治体への提案を本格化する。

4月の1カ月間、島内の3カ所にデジタル式の水

道スマートメーターを設置。無線を通して、30分程度離れた受信機に使用量のデータを飛ばし、保存できると確認した。現在のアナログ式メーターの水道検針は、担当者が2カ月に1回の頻度でふたを開けて確かめており、省力化できるとい

う。スマートメーターの設置は電力業界が先行している。中国電力ネットワーク（広島市中区）によると、中国地方の約50.5万台の

メーターを設置。無線を通して、30分程度離れた受信機に使用量のデータを飛ばし、保存できると確認した。現在のアナログ式メーターの水道検針は、担当者が2カ月に1回の頻度でふたを開けて確かめており、省力化できるとい

線に相乗りし、水道データを取得する動きが進むと予測。「人手不足の検針業務の自動化は、多くの自治体に共通する課題。導入や運用の支援業務を受注したい」とする。スマートメーターなら使用量の推移が1日数回程度、事業所の中で把握できるため、大規模な漏水の早期発見などにつながる利点も強調する考えだ。

（桑田勇樹）

